

特集 4

本業を通じて企業や公的機関の成長をサポート

「資金を必要とする発行体」と「資金を提供する投資家」をつなぐ

テクノロジーの進化や消費者の行動変化など、経営環境が劇的なスピードで変化するなか、事業会社や金融機関は、こうした「変化への対応」が迫られています。それを、自らのためめめ努力で克服することもあれば、ときには、事業の再編や合併・

出資、成長を可能とするためのファイナンスなど、資本市場の活用が必要になることもあります。野村グループは、アジアに立脚したグローバル金融サービスグループとして、各企業のニーズに合わせたさまざまなソリューションを提供しています。

当社の強みは、お客様のニーズに応じた総合的なソリューションの提供



最適なソリューションを提供できるビジネス基盤と実績

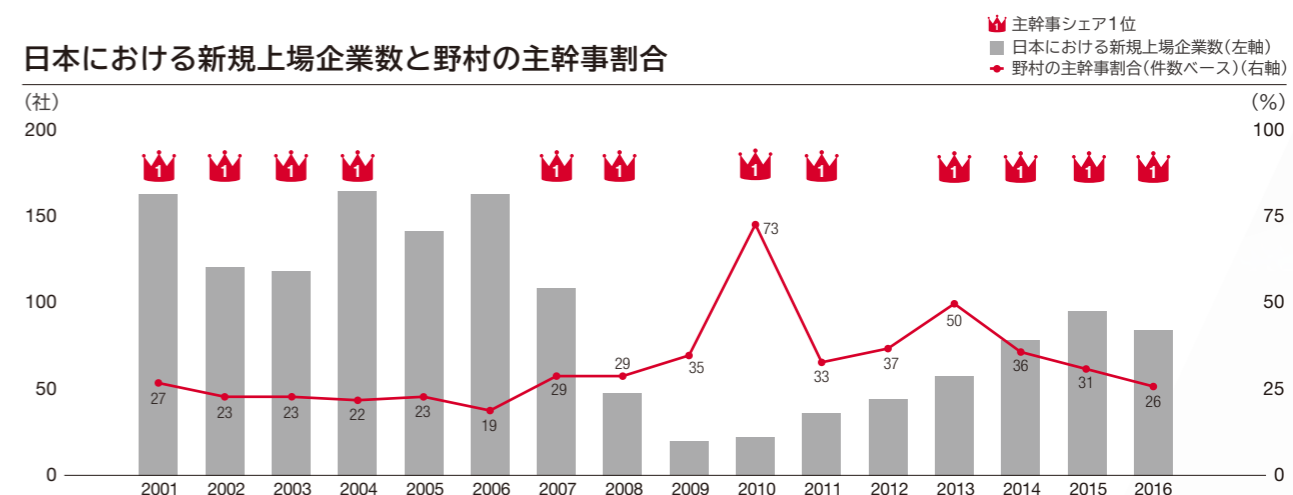
インベストメント・バンキング	Thomson Reuters Deal Watch Awards 2016-総合部門 “House of the Year-野村証券” Deal Watch Awards 2016-株式部門 “Equity House of the Year-野村証券”	Asiamoney Best Domestic Bank Awards 2016 “Best Domestic Equity House in Japan”
トレーディング	Euromoney FX Survey 2016 総合18位 (日系金融機関の中で7年連続で首位)	Coalition 2016年APAC投資銀行 リーグテーブル 同率3位 (2015年の8位から上昇)
セールス	Institutional Investor All-Japan Sales Team Ranking 総合第2位 Japan's Top Corporate Access Provider Ranking 総合第1位	J.D.パワー 2012-2016年日本投資サービス 顧客満足度調査 対面証券部門 “投資サービス満足度5年連続1位”

新たな市場参加者をサポート

野村グループは、投資家と企業の架け橋となり、成長が期待される企業の上場をサポートしています。さまざまな企業を株式市場に送り出し、企業価値向上のために継続的

にサポートをすることで、資本市場の活性化を促し、日本経済の発展や社会課題の解決に貢献しています。

日本における新規上場企業数と野村の主幹事割合



新規上場企業 Pick-up

株式会社ヘリオス
(2015年6月16日に東証マザーズ市場上場)

当社は『「生きる」を増やす。爆発的に。』というミッションのもと、iPS細胞をはじめとした幹細胞技術を用いて、難治性疾患の患者さんに治癒と希望を届けるべく事業を推進しています。2011年2月、iPS細胞由来網膜色素上皮細胞による、加齢黄斑変性の治療法の実用化を目指して設立。日本を代表する企業との提携に加えて、2015年6月東証マザーズ上場により、約77億円の資金調達を行いました。高齢社会において患者数が増加傾向にある疾患をはじめ、未だ有効な治療法がない疾患に対し、より根治に近い治療法の提供に向けて、国内外において開発を進めています。



細胞培養センター (Cell Processing Center)にて

株式会社カナミックネットワーク
(2016年9月14日に東証マザーズ市場上場)

カナミックネットワークは、「超高齢社会における地域包括ケアをクラウドで支える」を経営理念に、医療・介護・子育てといった社会保障分野に対するICTソリューションとして、情報共有プラットフォーム「カナミッククラウドサービス」を中心に事業を展開しています。例えば、患者様の情報を、主治医とケアマネジャーなどが職種・法人を超えてリアルタイムに共有できるようにしたり、子育てに関する行政等からの情報や相談支援を端末で簡単に受け取れるサービスを提供しています。本上場を経て、医療・介護・子育て業界のクラウドサービスNo.1を目指し、安心して豊かな地域社会の構築に貢献してまいります。

